夢中になれる。夢中になる。

未来きらめきプロジェクト

3年間の歩みを報告書にまとめました

東京都教育委員会では、学校に行きにくい状況にある児童・生徒が参加しやすい体験活動プログラム「未来きらめきプロジェクト（みらきら）」を令和5年度から実施しています。

この度、事業開始から3年間の取組を振り返り、「未来きらめきプロジェクト実施報告書」を作成しました。報告書には、プログラム提供団体の工夫、参加した子供たちや保護者の声、事業を通して見えてきた成果や課題などを掲載しています。

本稿では、みらきらの概要とともに、報告書の一部をご紹介します。







未来きらめきプロジェクト（みらきら）とは？

みらきらは、自然体験や芸術活動、ものづくり、対話型プログラムなど、NPOや地域団体と連携しながら様々な活動を展開しています。

大きな特徴は、子供たち自身が活動を選び、自分のペースで参加できることです。子供たちが夢中になれるものや安心できる人・場所と出会い、自分らしい一歩を踏み出すきっかけとなることを目指しています。

具体的な活動内容については、「とうきょうの地域教育」第152号もぜひご覧ください

とうきょうの地域教育（No.152）▶



3年間の取組を一冊の報告書に

令和5年度の事業開始から3年間、みらきらでは、子供たちの多様な興味・関心に応える体験活動を実施してきました。その中で、活動の内容だけでなく、子供たちが安心して参加するための環境づくりやスタッフの関わり方、保護者との信頼関係など、体験の場をつくる上で大切な視点も見えてきました。

そこで、これまでの取組を振り返り、活動を通して得られた気づきや工夫を広く共有するため、「未来きらめきプロジェクト実施報告書」を作成しました。

報告書には、3年間の活動事例や参加した子供たちや保護者の声を掲載しています。



未来きらめきプロジェクト実施報告書
～不登校児童・生徒に向けた
体験活動プログラムの記録～

今回作成した実施報告書では、事業の概要だけでなく、

- 子供たちや保護者の声
- プログラム提供団体の工夫
- 活動事例
- 事業を通じて見えてきた成果や課題

などを掲載しています。

３年間の取組から見えてきたこと

多様な体験活動を紹介

ものづくり、対話、音楽、読書、自由な遊び、自然体験など、子供たちの多様な興味・関心に応える六つの活動事例を紹介しています。各事例では、プログラムの内容とともに、実施団体が大切にしたことや、参加しやすい場にするための工夫を掲載しています。



参加した子供たちや保護者の声から

報告書では、参加した子供たちや保護者へのインタビューも掲載しています。参加前の思いや不安、活動に参加してからの変化や感想など、それぞれの思いを通して、体験活動がもつ意味を考えることができます。

体験活動の意義や可能性

安心して参加できる環境や、自分のペースで関われる柔軟な場づくり、保護者が安心して見守れる関係性の大切さなど、体験活動の意義や可能性が見えてきました。

報告書を、次の体験の場づくりへ

報告書を通して改めて見えてきたのは、子供たちが安心して参加できる環境や、自分の興味・関心に触れられる機会の大切さです。また、決められた活動への参加を求めるのではなく、見学する、途中から加わる、その場で自分なりに過ごすなど、一人ひとりのペースを尊重することも、体験の場づくりに欠かせない視点です。

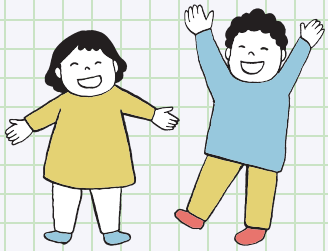
本報告書が、区市町村や関係団体の皆様にとって、地域の人材や団体、既存の活動を活かした体験活動や居場所づくりを考えるきっかけとなれば幸いです。

Check！ 詳しくはこちら

◀ 未来きらめきプロジェクト公式ページ

未来きらめきプロジェクト実施報告書 ▶

◀ （参考）「とうきょうの地域教育」第152号バックナンバー紹介記事



生涯学習課企画調整担当　TEL 03-5320-6874